

デモクラカフェ in 越谷～議会と学校と若者と～

2月6日の9:30～12:00に越谷市市民活動支援センターの活動室にて、学生さんたちにも地方政治を身近に感じていただきたい、そして、議会に若者や教育の現場からの意見をくみ取り、参加者と一緒に私たちの未来を考え続けるために、学生と議会の交流会としてデモクラカフェ in 越谷を開催。当日は、文教大学 教師の卵サークル WE さんのご協力の元で沢山の学生さんにご参加いただき、総勢 27 名で開催いたしました。

開始あいさつの代わりに、主権者教育の授業が文教大学の岡田健太郎さんによって行われ、元気に始動。参加者の笑い声や納得する姿に、私たちにはなかなか生み出せない、楽しい空間が作られました。現場を生きる、そして、自治で会話するという事は、このような活動や行動を指すのかもしれない。

次に埼玉政経セミナー事務局長の菊地議員より、議会のしくみ説明を行いました。普段耳慣れない言葉が飛び交いましたが、議会への参加形態が多様にある事や、議会と教育委員会とのかかわりに、教師を目指す学生は関心を寄せていました。一方的な説明ではなく、相手の関心毎から、政治ではなく生活ベースで対話する事が重要だと感じました。

越谷市議会議員の工藤議員、山田議員、菊地議員、白川議員には、「なぜ議員になったのか」「これからの教育はどの様に考えるか」「少子化対策はどのようなことをしているのか」の3つに対してお答えいただき、様々な境遇や意見から、今まで思い描いていた議員さんとの違いに、参加者から親近感が湧いていました。パネリストの年齢が近い事もあり、フレキシブルな質問も飛び交っていました。そのような中で、少子化対策への返答で、「高齢化や少子化は問題なのでしょうか？」という議員からの投げかけに、「解決しなければいけない問題」ではなく「受け入れていく現実」という違う視点が加わり、参加者も驚きを隠さないでいました。私たちは一般的に問題視されている事でも、多様な見方や感じ方から考え続けなければならないのかもしれない。

グループディスカッションでは、学生以外にも 30～40 代の参加が多く見られ、若者からの率直な意見や質問が飛び交い、和やかに対話が弾んでいました。地方政治を身近に感じてもらうには、今回のような取り組みが欠かせないのだと実感しています。今までくみ取られなかった意見は、議会や社会がうまく耳を傾けられなかっただけであり、もっとも声なき声なのかもしれません。18 歳からの投票権引き下げを契機に、若者との対話を活発化し、政治を「くらし」や「生活の現場」から見つめなおしていきたいと感じました。

